

子どもと保育
実践研究会
2023年度

冬季セミナー

日時

2024年 1月 8日 (月・祝)
10:30 ~ 17:30 (10:00 受付開始)

プログラム

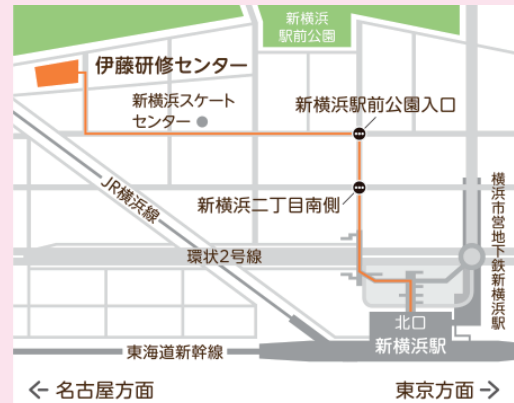
- 10:30 **開会挨拶**
渡邊英則
(港北幼稚園・認定こども園ゆうゆうのもり幼保園)
- 実践提案①**
「ともに生き、育ちあう保育のあり方を考える」
10:35 実践報告 町井芽生 (鳩の森愛の詩瀬谷保育園)
品川実里 (四季の森幼稚園)
12:05 コーディネーター 若月芳浩 (玉川大学)
三谷大紀 (関東学院大学)
- お昼休憩
- 実践提案②**
「子どもの姿から如何に保育者が
保育を創りやすくしていくか」
13:20 話題提供 野中こども園
14:50 鎌田美紀・福井綾架・中村章啓
コーディネーター 松山洋平 (和泉短期大学)
佐伯絵美 (合同会社子どもベース)
- 休憩
- 15:00 **講演**
「今こそ、「保育とは何か」を考えよう」
16:30 佐伯胖 (信濃教育会教育研究所)
- 16:30~16:35 まとめ

オンライン配信終了

16:45~17:30 会場参加者限定「アフタートーク」

会場

株式会社セブン&アイホールディングス 伊藤研修センター
(神奈川県横浜市港北区新横浜 2-19-1)



- JR 新横浜駅 北口より 徒歩約7分
 - 横浜市営地下鉄 新横浜駅出入口4より徒歩約7分
- ※駐車・駐輪スペースはありません。公共交通機関をご利用ください。

定員 100名(先着順)

参加費

会員	¥3,000
会員外	¥4,500
学生	¥1,500

※昼食時に飲食スペースの利用が可能です(販売はありません)

オンライン

Zoom ウェビナーを使用したオンライン配信です。

※アフタートークの配信はありません。

参加費

会員	¥2,000
会員外	¥3,000
学生	¥1,000

申込み方法

会場で参加される方



<https://kodomotohoiku2023winter.peatix.com/>

申込期限 12月25日(月) 13:00

オンライン参加される方



<https://kodomotohoiku2023winter-online.peatix.com/>

※申込サイトでお申込みできない場合は、メールでご連絡ください。
※ご入金後キャンセルの場合は返金できません。

冬季セミナー開催にあたって

今年の冬季セミナーは、夏季全国大会に引き続き新横浜での研修会場を確保して、対面を中心にハイブリッドで行います。夏季全国大会では、対面で参加したみなさんがオンライン研修部分終了後に感想や思いを話し合う

アフタートークを楽しみました。今回はインクルーシブ保育や園のマネジメントの実践提案とともに、佐伯先生には改めて原点に戻って「保育とは何か」というテーマでお話をさせていただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

実践提案要旨

実践提案①

「ともに生き、育ち合う保育のあり方を考える」

実践報告 町井芽生 (鳩の森愛の詩瀬谷保育園)
品川実里 (四季の森幼稚園)

障がいのある子どもとのかかわりを模索しながら、一人ひとりが大切にされ、育ち合う保育をつくっていく過程を、具体的な実践事例をもとに考えます。

そこにはきっと「インクルーシブな保育」のあり方だけでなく、子どもに向けるまなざしや、同僚や保護者との関係、保育そのものを見直し、よりよく変えていく糸口がきっとあると考えています。

子ども一人ひとりが、保育者が、保護者が、それぞれが大事にされ、ともに育ち、学び合っていくときに大切にしたいことを、皆さんとともに考えてみたいと思います。

実践提案②

「子どもの姿から如何に保育者が

保育を創りやすくしていくか」

話題提供 野中こども園

鎌田美紀・福井綾架・中村章啓

野中こども園は、子どもが「おもしろそう、やってみたい」と始めた遊びに自然に没頭・探究し、よりおもしろくするために試行錯誤したり、協同したりして、納得して終われるような環境を保障し、子どもの育ちを支えたいと願っている園です。その保育の実現のためには、子どもも子どもたちにかかわる大人も、同様に尊重され、共に主体的に保育を創っていくことが重要だと考えられています。野中こども園の長い歴史の中では、子どもの姿を保育者同士が語り合い、如何にして子どもの姿から保育者が保育を創っていくのかを大切に保育をされてきています。現在では、保育の新たな時代に入り、保育者の関係性や働き方の変化に応じて、ICTのさらなる活用も含め、業務の改善に日々取り組んでおられます。その中では、新卒も含めたクラス担任等の保育者が、子どもと共に自分で保育を創っていくためにどのような対話の道具や方法が良いのかを常に考えられていて、園長、副園長、主幹、副主幹等を中心に様々な工夫や試行錯誤がみられています。これまでの過程は、決して上手くいった話ばかりではありません！

実践提案では、これまでの試行錯誤や工夫について、マネジメントする側の視点や担任保育者側の視点を含めつつ赤裸々にお話しいただき、皆さんと実践を通して語り合っていきたいと思います。

講演

「今こそ、「保育とは何か」を考えよう」

佐伯 胖 (信濃教育会教育研究所)

法律的には幼稚園教育は学校教育制度に含まれており、幼稚園の保育者は「教諭」(学校の「先生」と同じ)です。そうだとすると幼稚園での教育(普通「保育」と呼ばれている)は、学校教育の教育と本質的に同じとされているわけです。

日本保育学会の英語表記は“Japanese Society of Research on Early Childhood Care and Education”であり、「学会」の英訳部分を取ると、“Early Childhood Care and Education”というのが「保育」の英語表記だと考えられるでしょう。欧米では、保育は一般的には“Early Childhood Education and Care”と表記されています。ここで気になるのは“Care”という言葉が入っていることです。“Care”と“Education”はそれぞれ独立に考えられてその両方を含める、という意味なのか、それとも、両者が渾然一体となって“Care入りEducation”、もしくは“Education入りCare”なのか。

この問題を解決するために、私が提案するのは、「教育」という営みの原点となる、人が人に「教える」ということの意味を、徹底的に原点から考えてみることです。私なりに、それを試みたところ、どうも「教える」ということには、それが幼児教育だろうと学校教育だろうと、「ケア」が根源的に含まれているということです。「ケア」の精神(マインド)抜きでは、そもそも「教える」ということ自体が成り立たない。また、ケア/ケアリングを考えていくと、どこかで「教える」という精神(マインド)が、どうしても入り込んでくるということです。このあたりのことを、「気持ち」の問題としてではなく、とことん理詰め(Because-Thereforeの積み上げで)きちんと論じたい。

会場参加者限定！「アフタートーク」

会場で参加された方々限定で、プログラム終了後、その内容をもとに、バズ・セッションを行います。実践提案や講演を聞いて終わりではなく、そこから考えたことを対面で発信し合い、学びを深める時間としたいと思います。

